

Minami Kyushu University Syllabus							
シラバス年度	2021	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	環境園芸学部		
科目名称 [英語名称]	教育社会学 [Sociology of Education]			実務経験 教員担当	アクティブ ラーニング	○	
科目コード	410331	授業形態	講義	単位数	2	配当学年	2年次
教員氏名	植村 秀人			学位授与の方針 との関連	DP3(1)(2)		
授業概要	<p>本授業科目は、教育の状況について社会や法制度の関わりからの視点から講義を行う。特に、教育と社会の相互関連について学ぶことで、両者の相互関係が重要であることについて学習することになる。</p> <p>本講義では、教育と法制度との関係、その後、教育・学校と社会の関わり、社会の変化による教育への影響、学校教育の課題、学校の危機管理、地域と学校の連携について講義する。これらの講義を通して、教員としてどのような教育をしていくべきかについて受講者各自が考察を行なう。</p>						
関連する科目	(教養科目): 憲法・社会学・社会と経済・人間形成論 (教職科目): 教育学概論・教職概論・特別活動論・中等教科教育法(農学科)・中等教科教育法(理科)・学校食教育論Ⅰ及Ⅱ						
授業の進め方と方法	本授業は、講義形式で実施する。一部の回では、受講者をグループ分けし、グループディスカッションや課題発表を予定している。このいより受講生が主体的に学ぶようにする。						
授業計画	<p>第1回: はじめにー教育と社会のかかわり(近年の教育・学校課題の確認) 教職課程における本講義の位置づけを理解するとともに、社会と教育の係に注目する。</p> <p>第2回: 教育に関する制度①ー公教育とは何か?(公教育の概要・学校制度)</p> <p>第3回: 教育に関する制度②ー教育と法①(教育基本法と学校教育法)</p> <p>第4回: 教育に関する制度③ー教育の行政機構 公教育概念を知り、公教育の理念が法律にどのように反映されているのか、公教育を支える諸規定や制度がどのように構築されているかを知る。</p> <p>第5回: 学校と地域①ー地域の教育力(学校以前の教育と人間形成)</p> <p>第6回: 学校と地域②ー学校の人生における価値(学校の登場と重要化、そしてそのゆらぎ)</p> <p>第7回: 教育の課題①ー子どもの置かれた状況の変化(少子高齢化・子供の貧困・児童虐待) 学校の果たす役割・現代社会における重要度を知るとともに、学校内外で発生している子どもの課題から学校教育が置かれた状況を理解する。</p> <p>第8回: 学校の安全①ー学校安全の課題と関連規則</p> <p>第9回: 学校の安全②ー学校安全の取り組み課題 学校における過去の危機事例を知り、その事例などから学校安全対策(学校の危機管理)の制度や実際の取組を理解する。</p> <p>第10回: 教育の課題②ーいじめ問題とその対応(ネットいじめの課題も含む) いじめ問題が学校教育において深刻な問題であることを知り、教員がどのような対応をしないとイケないかを理解する。</p> <p>第11回: 学校と地域との連携①ー開かれた学校づくりが求められる背景とは</p> <p>第12回: 学校と地域との連携②ー地域住民の学校参加の意義と方法(地域との連携協働: 地域運営学校・チーム学校) 教育は、社会変化・社会からの要望などを受け学校のみで行うものではなく、社会と協働して行っていくものに変化しており、その背景と学校の取組について理解する。</p> <p>第13回: 教育の課題③ー教育の変化(生涯学習・国際化・知識基盤社会と学校教育)</p> <p>第14回: 教育に関する制度④ー教育と法②(これまでの学習と教育関連法規の理解) 社会変化などから教育に対する要望は多様化し、それに対応して教育のありようが変化していることを理解する。</p> <p>第15回: まとめー新しい時代の教育へ(近年の教育改革の理解) 本講義をまとめると同時に、今後の社会変革などにおける教育改革などに視野を広げ、教員として対応していく資質を高める。</p>						
授業の到達目標	<p>① 教育と法制度との関係の理解</p> <p>② 教育・学校と社会の関わり(社会の変化による教育への影響と変化を含む)の理解</p> <p>③ 学校教育の課題(学校の危機管理を含む)の理解</p> <p>④ 地域と学校の連携の理解</p> <p>⑤ ①～④を含め教員としてのあるべき姿を考察する</p>						
授業時間外の学修	予習を行うこと(各1時間) 復習を行うこと(各1時間) 課題に取り組むこと(10時間) 参考書などを読み自己学習を深めること(10時間) レポートに取り組むこと(10時間)						
課題に対するフィードバック	レポートについては、返却する。この際に評価のポイントなどを簡潔に説明する。提出物・グループワークは、上記返却時に評価のポイントを説明する。テストは、終了後に解説を行い、後日答案の返却をする。	評価方法	<p>授業記録 30点</p> <p>授業課題 10点</p> <p>授業姿勢(グループ学習) 10点</p> <p>テスト 50点</p>				
テキスト	配布資料を用いる						
参考書	教育制度論 教育六法 田中克佳 教育史 加野芳正 新しい時代の教育社会学 木村元 日本の学校受容 片桐芳雄・木村元 教育から見る日本の社会と歴史 神田嘉延 増補版『学校再生論の礎石?人間・国家・地域と学校?』高文堂出版社 安彦忠彦・石堂常世 編著 『最新教育原理』勁草書房						
備考							